

社会調査実習 E(浅岡クラス)の 1 年間 ～2010 年度の場合～

4 月	オリエンテーション, 自己表現を兼ねたプレゼンテーション フィールドワークの説明 グループ決め, 役割分担決め(サンプリング, 郵送, 合宿幹事, 調査票, ヒアリング, 実査準備).
5 月	グループごとに調査課題を決定し, 情報収集の上, 仮説を検討 第1回コンパ
6 月	調査地の検討. グループごとの候補地プレゼンテーション ⇒山梨県北杜市に決定. 調査地への事前交渉(教員) 仮説から調査項目へ. そして調査票の検討(～9 月まで)
7 月	ヒアリング調査項目と対象者の検討 引き続き調査票の検討 前期納会コンパ
8 月	現地でのサンプリング作業(選挙管理委員会にて選挙人名簿より 1,600 名分抽出), ヒアリング調査対象者への交渉, 模擬ヒアリング調査(対象; 立正大学政策広報課) 調査全体事前説明会
9 月	現地調査&視察→ヒアリング調査(市役所等行政, 地域メディア, まちづくり団体・NPO, など全 17 カ所), 市内各所見学 調査票完成・印刷・封入・宛名書き・そして発送の一連作業 調査対象者からのクレーム電話の対応 データ入力, エディティング作業→単純集計, クロス集計 2 期でのオリエンテーション
10 月	ヒアリング音声デジタルデータ書き起こしとまとめ 調査実習報告会に向けたキックオフ 実習報告会に向けたプロジェクトチーム立ち上げ, 各グループ内の役割分担 各グループの報告内容の検討・プレゼン, レジюме&PowerPoint 発表タイトル決定
11 月	報告会準備. 各グループ+全体総括の検討・準備 報告会本番に向けたリハーサル(1 週間前&前日) 調査実習報告会にて発表. 打上げコンパ (浅岡演習ゼミ共催)“就活道場 vol.1”開催
12 月	報告書作成に向けたキックオフ. 報告書の作成構想発表. 報告書編集長, 提言委員長など選出 各グループでの分析を検討・プレゼン. そして報告書執筆. (浅岡演習ゼミ共催)“就活道場 vol.2”開催 (浅岡演習ゼミ共催)浅岡ゼミ卒業論文報告会(卒論コンファレンス 2010)開催 クリスマスコンパ(学生自主企画) 編集委員会, 提言委員会開催 報告書第一稿締め切り(28 日)
1 月 (予定)	提言委員会開催. 報告書「まとめと提言」を検討・プレゼン 報告書原稿に対する修正依頼と修正作業 打上げコンパ
2 月 (予定)	報告書原稿完成・提出

※具体的な様子は, クラスメンバーが作成した“ゼミ PR ムービー”(実習報告会ゼミ PR タイムで公開)をご覧ください。「学内ポータル」左メニュー→「Ub!Point」→「文学部・浅岡先生」→「調査実習」にあります。学内のネットワーク環境でのみ閲覧可能です。

◆2010年度のメンバー；

担当教員； 浅岡隆裕(立正大学准教授)
 共同運営； 松本憲始(立正大学文学部非常勤講師 山口福祉文化大学准教授)
 履修者； 学生 29 名(3年次学生 /男 16 名+女 13 名 / 浅岡演習ゼミ生 12 名)

【参考】これまでの浅岡担当クラスの実績

年度	報告書タイトル	調査地	キーワード	調査手法・特記事項
2005	「水戸市における県域デジタル放送の認知度ニーズについて」 ¹	茨城県 水戸市	地上デジタル放送, 地域情報, 情報ニーズ	○訪問面接調査 ○関係者ヒアリング
2006	「信州・安曇野の住民意識とメディアライフ」	長野県 安曇野市	町村合併, 住民間のコミュニケーション	○訪問面接調査 ○関係者ヒアリング
2007	「コミュニティFMと住民メディア意識」 ²	横浜市 青葉区	コミュニティFM, 住民の情報発信, ラジオメディアの利用行動	○留置き郵送返送調査 ○関係者ヒアリング
2008	「地方都市復権の可能性を探る」	千葉県 木更津市	ドラマ『木更津キャッツアイ』の社会的影響, 地域の安全・安心, 地域振興	○留置き郵送返送調査 ○関係者ヒアリング
2010	「まちづくりと地域ブランド」(仮)	山梨県 北杜市	地域ブランド, 地域資源, まちづくり, 広域町村合併	○郵送調査 ○関係者ヒアリング

◆2011年度の実習クラス運営の基本方針

- ・情報・メディア、住民意識、コミュニケーション、地域活性化などをキーワードとしつつ、特定地域でフィールドワークを行います。
- ・トピックと調査地などは受講者と相談しながら決定します。
- ・質問紙調査と関係先へのヒアリング調査を行い、調査&分析スキルを実践的に習得します。
- ・実習と合わせて下記も支援します。
 - 就職活動サポート→インターンシップ幹旋, “就活道場(4年ゼミ内定獲得者によるレクチャー)”
 - 卒論作成サポート→“卒論コンファレンス(卒論報告会)”
 - 各種アルバイト幹旋 などを行います。
- ・共同運営スタッフとして、松本憲始先生にも引き続きご担当いただきます。



◆問合せ先

浅岡 asaoka@ris.ac.jp

¹ 茨城大学教育学部岩佐研究室とのコラボレーション研究事業。

² 横浜市青葉区(東急沿線)のコミュニティFM局「FM サルース」との共同プロジェクト事業。